



さくらちょうしょう

# 桜町小だより

「緑と笑顔がいっぱい桜町小」

児童数 333名 令和6年6月4日(火)



## 「経験」

校長 小川 哲

寒暖の差が激しい日が続いていますが、校内の植物、作物共に順調に育ち、紫陽花もきれいな花を咲かせ始めました。

5月10日(金)に全校ふれあい遠足でグリーンセンターに行きました。「ちょっと暑いかな」と思わせる気候の中、縦割りグループで取り組みました。道中、高学年の児童は低学年の児童の話を聴きながら、低学年の児童は話しながら、懸命に歩を進めます。グループでのオリエンテーリングでは、張り切ってミッションをクリアしようとする低学年と、「もっと上手にできるよ」とがんばる中学年、それらをまとめようとする高学年…とそれぞれの学年に応じた姿が見られました。その時々それぞれの段階に応じた経験をすることが大切なのだと思えて感じました。今の学年で経験すべきことを経験して、次のステップに進めると、学びや経験がつながっていくのだと。準備の期間が短い中でも、担当を中心にこれだけの行事ができたことは、私たち教員にとっても良い経験となりました。



5月23日(木)24日(金)と5年生と一緒に大貫海浜学園に行ってきました。私はこれまで「行事は学校生活で身に付けてきたことを発揮する場」と捉えてきました。しかし、この時期の宿泊的行事となると「発揮する場」としての結果や変容を求めすぎるよりも、「今、学校で身に付けようとしている力を付ける場」「発揮しようとしている場」と捉えてもよいのでは、とも思えてきました。今回の大貫では…

- ☆5分前行動を全員ができるようになってきた
- ☆立場の違う友達の意見を認められるようになってきた
- ☆次の人のことを考えてトイレのスリッパが整頓できていた
- ☆自分が貝を拾えたら、友達の分を一緒に探す姿がたくさん見られた
- ☆違う小学校の人とも相談しながらメッセージボードを素敵なものに仕上げていた
- ☆人の話を聴く態度が身に付いてきた
- ☆布団を敷いたり片付けたり、協力してできていた
- ☆自分の役割をしっかりと果たそうとしていた

といった姿がたくさん見られました。「伸びよう」「みんなで楽しもう」とする姿勢が素晴らしいかったです。

形に残る思い出や経験があれば、形に残らないものもあります。しかし、どちらも子供たちの中には確かに「経験」として存在していて、今後の力になったり、何かに挑戦したりするときの力になるのだと思います。一学期も半分が過ぎました。これからも「経験」したことを力としてさらにみんなで伸びていきます。楽しみです！